

YAMAHA

KP80S

取扱説明書

はじめに

このたびはヤマハKICK PAD KP80Sをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。KP80Sは、電子ドラムシステム用に開発されたバスドラム用のトリガーパッドです。打面に厚めのラバーパッドを採用し、アコースティックなフィーリングを持つ豊かな演奏表現を可能にします。さらに、ドラムトリガーモジュールDTXと組み合わせてKP80Sを2台お使いの場合には、2バスとしてセッティング出来るようになりました。KP80Sの優れた機能を使いこなしていただくために、本書をご活用いただけますようご案内申し上げます。また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備え、本書を大切に保管いただけますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

△ 警告 この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ 先端が鋭利な部分に触れる時は十分な注意をしてください。特にすれ防止スパーは先端部分が針状になっています。けがの原因となるので取り扱いには十分注意してください。また、遊びの道具として使用しないでください。

! 設置場所は床面が平らで丈夫な所にしてください。床が傾いていたり、段差があると不安定となり、転倒する恐れがあります。

△ 注意 この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的傷害が発生する可能性が想定されます。

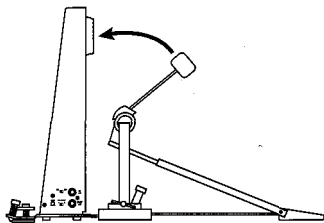
! キックパッドとペダルをセッティングする際、指に注意してください。ペダルに指が挟まれてけがをする恐れがあります。

! 楽器としての通常の使い方以外の使い方(腰掛けるなど)をしないでください。けがをする恐れがあります。

! ずれ防止スパーの先端が床面に直接当たると、傷が付きますので十分ご注意ください。

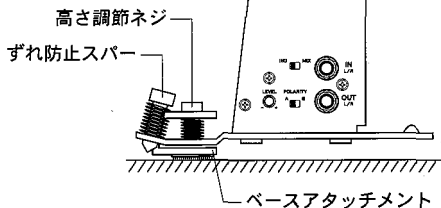
■ セッティングのしかた

1. お使いのキックペダルのピーターがパッドの中央に正しく当たるようにセットします。
2. 本体がぐらつかないように設置します。じゅうたんの上などで使用する場合にはベースアタッチメント裏のマジックテープをしっかり噛ませますと効果的です。
3. お使いのキックペダルに合わせて、ベースアタッチメントの高さ調整ネジでKP80Sの高さを調整します。ネジを右方向に回すほど高くなり、左方向に回すほど低くなります。



NOTE: マットや専用台を用いる場合や、床に傷が付いても構わない場合は、ずれ防止スパーを右方向へ回し、スパーの先端部が当たるようにしますと、演奏の際にKP80S本体がずれるのを防止することができます。

NOTE: 床面に傷をつけたくない場合は、ずれ防止スパーの先端が直接床面に触れないよう、セッティングしてください。

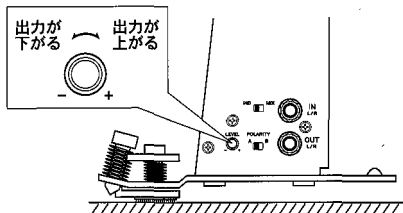


■ 出力(LEVEL)調整

KP80Sからのトリガー出力の大きさを調節します。レベル調節つまみを右(+)に回すと出力が上がり、左(-)に回すと下がります。キックペダルを踏み強さや必要とされるダイナミックレンジ、またお使いになる機器などに応じて調節してください。

NOTE: KP80SをDTXで使用する場合、fで演奏のとき、DTXのトリガーエディットモードの4ページ目 [PAD Gain]のインプットレベル表示が90~95%になるように調節します(TRIGGERキーを押してトリガーエディットモードに入り、PAGE▼キーを3回押せば4ページ目の [PAD Gain]になります。+1/YES、-1/NOキー、またはジョグダイヤルを使って調節してください)。

出力が大きすぎると、ダイナミックレンジが狭くなったり、ダブルトリガーなどのトラブルが起きやすくなったりします。なお、出力の大きさは製品によって異なりますので、複数使用の場合はご注意ください。



■ 音を大きくしたい時は

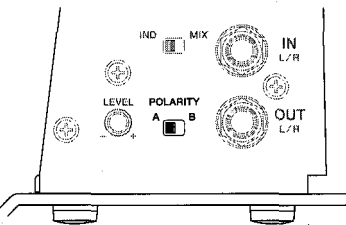
KP80SをDTXで使用する場合、KP80Sにアサインした音の音量を変えたいときは、この出力調整の後に、DTXのボイスエディットモードのボリューム調整を行ってください(VOICEキーを押してボイスエディットモードに入り、PAGE▼キーを1回押せば2ページ目の [Volume]になります。+1/YES、-1/NOキー、またはジョグダイヤルを使って調節してください)。

■ 極性切り換え(POLARITY)スイッチ

お使いになるドラムトリガーモジュールとの組み合わせで、より自然な演奏が可能になる方に設定します。

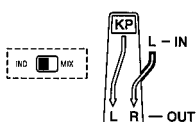
NOTE: KP80Sでは、工場出荷時に、DTXで使用する際適正な動作をする方(AまたはB)に設定されています。

NOTE: KP80SをDTXで使用する場合、トリガーエディットモードの2ページ目 [PAD Type]で、パッドタイプをkick1またはkick2にしてお使いになると、さらに自然な演奏が可能になる場合があります(TRIGGERキーを押してトリガーエディットモードに入り、PAGE▼キーを1回押せば2ページ目の[PAD Type]になります。+1/YES、-1/NOキー、またはジョグダイヤルを使って調節してください)。



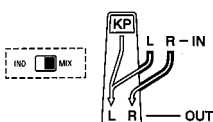
■IND-MIX切り換えスイッチ

IN(L/R)に入力される信号は、IND-MIX切り換えスイッチにより、下図のように出力されます。(KP80S本体の信号は、いずれの場合もL outから出力されます。)



INDの場合

IN(L/R)にステレオ信号を入力してもRchは出力されません。モノラル信号、またはステレオ信号のLchのみR outから出力されます。



MIXの場合

IN(L/R)に入力されたモノラル信号またはステレオ信号のLchはKP80S本体の信号にMIX(並列接続)され、L outから出力されます。RchはKP80S本体のR outにスルー出力されます。

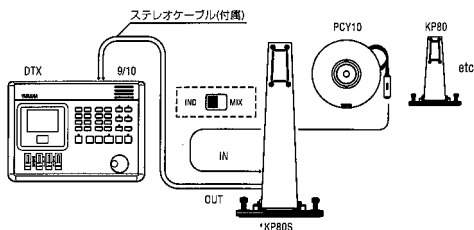
このIND-MIX切り換えスイッチを使って、以下のような接続が可能です。

接続例 1

シンバルパッドPCY10などを接続する

切り換えスイッチを「IND」にしてKP80Sの出力をDTXの9/10 INPUTに接続します。

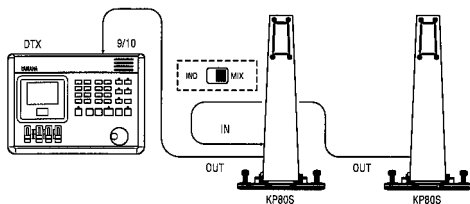
KP80Sの信号はINPUT 9に、PCY10などの信号はINPUT 10に出力されます。



接続例 2

2台のKP80Sで同じ音(INPUT 9)を鳴らす

切り換えスイッチを「MIX」にして図のようにもう一台のKP80Sを接続します。2台のKP80Sの信号はいずれもINPUT 9に出力されます。

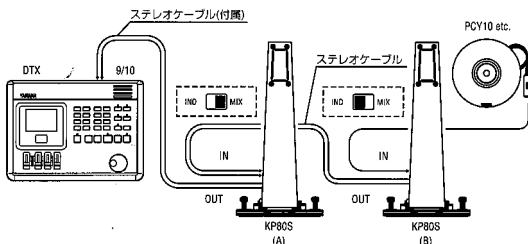


接続例 3

2台のKP80SとPCY10などを接続する

2台のKP80Sの信号はINPUT 9に、PCY10などの信号はINPUT 10に出力されます。

NOTE: IND-MIX切り換えスイッチをMIXでお使いになる場合、MIX(並列接続)されるパッドの信号出力の大きさは両方も若干小さくなります。レベル調節つまみや、お使いになる機器のゲイン調整、音量調整機能を使って調節してください。



NOTE: 他のキックパッドKP80と併用される場合、IND-MIX切り換えスイッチをMIXでお使いになる(並列接続)と、KP80SとKP80の出力のバランスがとれない場合があります。レベル調節つまみで調節しても音量バランスがうまく調整できない場合は、KP80側の内部変更が必要になりますので、本取説に記載の、最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご相談ください。

摩耗部品の交換について

- ・ 本機には使用年月とともに性能が劣化する磨耗部品(ゴムパッド、ポリウム、スイッチ、接続端子など)が使用されています。磨耗部品の劣化の進行度合は、使用環境や使用時間などによって異なります。
- ・ 磨耗部品の交換は、お買い上げ店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

仕様

外形寸法	190(W)×185(D)×382(H)mm
重量	3.8kg
コントロール	出力調整ポリウム、極性切り換えスイッチ、IND-MIX切り換えスイッチ
入・出力端子	標準フォンジャック(ステレオ)×2
付属品	フォンプラグ(ステレオ)付ケーブル(3m)

アフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造切後8年です。

●持込み修理のお願い

まず本書をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理、サービス問い合わせ先)

北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL. 011-512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区御町5-7	仙台部商共同配送センター3F	TEL. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL. 044-434-3100
東京サービスステーション (お持ち込み修理のみお取扱い)	〒108-8658	東京都港区高輪2-17-11		TEL. 03-5488-6625
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	ヤマハ(株)高松店内	TEL. 087-822-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL. 092-472-2134
[本社]カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-1158

ヤマハ株式会社(商品に関する問い合わせ先)

北海道支店第2営業課	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 (ヤマハセンター)	TEL. 011-512-6113	
仙台支店第2営業課	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL. 022-222-6147	
大阪支店第2営業部	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-5471	
関東支店第2営業課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-1688	
名古屋支店第2営業課	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL. 052-201-5199	
大阪支店第2営業部	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9	心斎橋プラザビル東館	TEL. 06-252-5231
広島支店第2営業課	〒730-0031	広島市中区紙屋町1-1-18		TEL. 082-244-3749
九州支店第2営業課	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL. 092-472-2130
弦打楽器営業部営業課	〒430-8650	浜松市中沢町10-1		TEL. 053-460-2433